

発達領域  
知能以外にも、いろいろな発達領域がある  
複数の発達領域に偏りがあることは稀ではない

- 知能
- 対人交流・集団参加
- コミュニケーション  
言語性コミュニケーションと非言語性コミュニケーション  
理解（受信）と表出（発信）
- 思考や行動の柔軟性（社会的想像力）
- 注意力
- 衝動コントロール
- 落ち着き
- 感覚処理  
過敏反応と低反応  
聴覚・視覚・嗅覚・触覚・圧覚・痛覚・味覚・前庭覚など
- 運動  
微細運動（手先の器用さ）と粗大運動（体育、身のこなし）
- 読むこと
- 書くこと
- 計算すること
- :

\*得手・不得手には、幾つかのパターンがある  
自分の得手・不得手の領域（パターン）を知ることは生活に役立つ

\*不安症・うつ病・躁うつ病などの精神科疾患が同時にみられることも多い  
発達の特徴と関連するストレス（新しい活動・枠組みの乏しい状況・集団場面、など  
人それぞれの苦手な状況）が、精神科疾患悪化の引き金となることも稀ではない

子どもとおとなの心理学的医学教育研究所（iPEC）

精神科医師 吉田 友子（よしだ ゆうこ）